

**使用説明書**

動物用医薬品

使用前に必ず本使用説明書を読み、注意事項を守って使用して下さい。

**日生研IBD生ワクチン**

(鶏伝染性ファブリキウス囊病生ワクチン (大ひな用) (シード))

**【製法及び性状】**

本剤は、弱毒伝染性ファブリキウス囊病ウイルスを SPF 鶏群由来の発育鶏卵で増殖させ、その感染胚乳剤に安定剤を加えて凍結乾燥したのち、減圧下で封じたものである。

乾燥ワクチンは、黄褐色の乾燥物で、添付の溶解用液を加えて振り混ぜると容易に溶解し、帯黄褐色の均質な懸濁液となる。

溶解用液は、滅菌精製水で、無色透明の液体である。

**【成分及び分量】**

|  |  |
|--|--|
| ワクチン 1 本 (飲水投与の場合：2,000 羽分、経口投与の場合：100 羽分) 中 |  |
| 鶏胚培養弱毒伝染性ファブリキウス囊病ウイルス MB-1・E 株 (シード)        | 10 <sup>5.0</sup> EID <sub>50</sub> 以上 |
| ラクトアルブミン水解物                                  | 200mg                                  |
| ベンジルペニシリンカリウム                                | 400単位                                  |
| 硫酸ストレプトマイシン                                  | 400 $\mu$ g (力価)                       |
| 溶解用液 1 本 (20mL) 中                            |  |
| 滅菌精製水  | 20mL                                   |

**【効能又は効果】**

鶏の伝染性ファブリキウス囊病の予防

**【用法及び用量】**

乾燥ワクチンを付属の溶解用液に溶かし、2~4 週齢のひなに飲水量に応じて飲水で希釈して全羽数飲水投与する。

10~16 週齢の鶏には、免疫対象鶏の 5% に 1 羽当たり 0.2mL を経口投与する。

**【使用上の注意】****(一般的注意)**

1. 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
2. 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
3. 本剤は効能・効果において定められた目的のみ使用すること。
4. 本剤はシードロットシステムにより製造され、国家検定を受ける必要のないワクチンであるため、容器又は被包に「国家検定合格」と表示されていない。

**(使用者に対する注意)**

1. 誤ってワクチンが眼、鼻、口等に入った場合は直ちに水で洗浄すること。必要があれば本使用説明書を持参し、医師の診察を受けること。

**本ワクチン成分の特徴**

| 微生物名             | 抗 原        |         | アジュバント |    |
|------------------|------------|---------|--------|----|
|                  | 人獣共通感染症の当否 | 微生物の生・死 | 有無     | 種類 |
| 伝染性ファブリキウス囊病ウイルス | 否          | 生       | 無      |    |

本ワクチン株は、人に対する病原性はない。

本ワクチンに関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

日生研株式会社 製品係 〒198-0024 東京都青梅市新町9丁目2221 番地の1  
TEL 0428-33-1009、FAX 0428-31-6696

2. 事故防止のため、作業時には防護メガネ、マスク、手袋等を着用すること。
3. 作業後は、石けん等で手をよく洗うこと。

**(鶏に対する注意)****1. 制限事項**

- (1) 本剤の投与前には健康状態について検査し、重大な異常 (重篤な疾病) を認めた場合は投与しないこと。

- (2) 鶏が次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、投与の適否の判断を慎重に行うこと。
  - ・元気消失、食欲不振、発熱、下痢、呼吸器症状など臨床異常が認められるもの。
  - ・疾病の治療を継続中のもの又は治療後間がないもの。
  - ・明らかな栄養障害があるもの。
  - ・他の薬剤投与、導入又は移動後間がないもの。
- (3) ワクチンウイルスの他鶏群への拡散を防止するため、免疫群は隔離すること。
- (4) ワクチン投与後は、飼育管理に十分に注意し、鶏に与えるストレスの軽減に努めること。

## 2. 副反応

幼すうに投与した場合、一過性のファブリキウス嚢の萎縮及び免疫抑制が見られる場合がある。

## 3. 相互作用

- (1) 本剤には他の薬剤（ワクチン）を加えて使用しないこと。
- (2) 本剤投与前後 24 時間は、消毒剤や他の薬剤の使用を控えること。

## 4. 適用上の注意

- (1) 移行抗体価の高い個体では、ワクチン効果が抑制されることがあるので、投与時期を考慮すること。
- (2) ワクチンの調製時には、清潔な用具を使用し、雑菌などを混入させないこと。
- (3) 本剤の投与方法には、飲水及び経口投与方法があるので、各投与方法の注意事項を守って正しく使用すること。

### 飲水投与する場合

- ・飲水投与に用いる器具は、消毒薬を含まないきれいな冷水で洗浄すること。飲水に水道水を用いる場合は、あらかじめ煮沸、汲みおき、脱脂粉乳添加（0.2%）あるいはチオ硫酸ナトリウム（ハイポ）添加（0.01～0.02%）などの処置をした後、使用すること。
- ・鶏に均等にワクチンを投与するために、全部の鶏が均等に飲めるように十分給水器を準備すること。
- ・鶏に均等に投与するために、投与前 2～3 時間断水し、ワクチン溶液は 2～3 時間で飲みつくされるように調製し、ワクチン溶液がなくなってから、通常の飲水にもどすこと。

### 経口投与する場合

- ・経口投与に用いる器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒した器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと（ガス滅菌によるものを除く）。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、常温まで冷えたものを使用すること。
- ・投与はなるべく鶏の喉の奥に行い、嚥下を確認してから鶏を放すこと。
- ・鶏群全体を均一に免疫するために、投与鶏は鶏群内に均等に分布させること。

## [取扱い上の注意]

1. 乾燥ワクチン瓶内は真空になっており、破裂するおそれがあるので、強い衝撃を与えないこと。
2. 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
3. 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
4. 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。
5. 溶解は使用直前に行い、溶解後は速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
6. 使い残りのワクチン及び使用済みの容器は、消毒又は滅菌後に地方公共団体条例等に従い処分、若しくは感染性廃棄物として処分すること。用いた器具や器材は消毒後水洗いすること。

## [保管上の注意]

1. 小児の手の届かないところに保管すること。
2. 直射日光又は凍結は、品質に影響を与えるので避けること。
3. 溶解用液は凍結すると容器が破損する場合があるので避けること。

注意—獣医師等の処方せん・指示により使用すること

## [貯法及び有効期間]

1. 遮光して、2～5℃ に保存する。
2. 有効期間は、製造後 2 年 3 か月間である（最終有効年月は外箱及びラベルに表示）。

## [包装]

- 1 セット 飲水投与の場合：2,000 羽分、経口投与の場合：100 羽分（2,000 羽免疫用）  
（20mL 溶解用液添付）〔2013 年 7 月改訂〕

**日 生 研 株 式 会 社**  
東京都青梅市新町 9 丁目 2 2 2 1 番地の 1